**平成30年度第１回岩国市環境審議会の結果について**

1. **会議名**

平成30年度第１回岩国市環境審議会

**2　開催日時**

　 平成30年7月26日（木）午後2時00分から午後3時35分

**3　開催場所**

　 岩国市役所２階　特別会議室

**４　出席した者の氏名**

　（委員）

　　藤野完二（会長）

　　河本智勇、木村圭一、白木吉子、竹下直彦、田村巌、樋口隆哉、松本哲郎、村元雅晴、森川裕子

　（事務局）

　　環境部長：藤村篤士、環境保全課　課長：中津朝実、環境対策班長：青木肇、環境対策班：山本剛史

　（担当部署等）

　　環境事業課　課長：山根正美、企画室長：藤井哲夫、企画室：荒川香与子

　　株式会社東和テクノロジー　望月俊彦、武田真爾

　（関連部署）

　　焼却施設建設事務所　所長：槙本新次郎、環境施設課　課長：穴水辰雄、下水道課　主査：片野光一

**５**　**議題**

１　環境審議会の副会長の選出

２　岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について

　**６　公開・非公開の別**

公開

**７　傍聴人数**

0人

**８　会議内容概要**

　　委嘱状交付式

諮問書手交式

　　《審議等事項》

（1）環境審議会の副会長の選出

副会長：嶋田委員（委員協議のうえ、決定）

(2)岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について

（事務局）

　 それでは、只今から平成30年度第１回岩国市環境審議会を開催いたします。

　　（事務局）

　　岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定についての諮問書の手交式を行いますので、藤野会長、前のほうへお願いします。

（諮問書）

岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について（諮問）

このことについて、下記のとおり諮問いたしますので、御審議のうえ答申賜りますようお願いいたします。

記

１　諮問事項

　　　　　岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について

２　諮問の趣旨

　　　　　本市では、平成21年１月に、中間目標年度を平成25年度、計画目標年度を

平成35年度とした「岩国市一般廃棄物処理基本計画」を策定いたしました。

本計画は、ごみの発生・排出削減目標等の数値目標を定めることから、概ね

５年ごとに改定することとしており、本年度２回目の改定を行います。

これまで、本計画に従いまして、持続可能な循環型社会の形成に向けて、市

民の皆様や事業者の皆様のご協力の下、市民・事業者・行政が協働した取り組

みを行ってまいりました。

しかしながら、リサイクルの推進やごみ処理体制などにおいて、様々な課題

がでてきており、また、平成31年度から新焼却施設「サンライズクリーンセン

ター」が本稼動しますことから、現在の体制の見直しや現状の課題への取り組

みが必要となっております。このような状況に対応し、更なる資源の有効活用

及び循環型社会構築のため、新たに目標値を設定し、施策を推進してまいりた

いと考えております。

　つきましては、岩国市一般廃棄物処理基本計画の改定について、御意見をい

ただきたく、諮問いたします。

（会　長）

 お受けしました。

（会　長）

　　本日は委員12名のうち10名に出席いただいております。岩国市環境審議会条例第6条第2項の規定により、本日の会議が成立していることを報告いたします。

　　次に、議事録の署名委員として木村様、白木様、よろしくお願いします。

～担当課からごみ処理の現状について資料に沿って説明～

（会　長）

　ご意見ご質問等ありますか。

（委　員）

　[資料1-5]基地ごみについて、去年12月に愛宕ヒルズへの入居が始まったことで増えるごみはどの

くらいですか。

（担当課）

　　基地の人口が倍程度増加するようにきいておりますので、単純に考えて2倍かと。基地からのごみ搬入量については市から許可文書を渡していまして、その許可文書内で年間4,682.4ｔまでは受け入れるとしております。増えてもそこまでと考えており、想定以上増えた場合、新たに協議し、許可量の変更があるかもしれませんが、なければ4682.4ｔが上限になります。

（委　員）

　［資料1-10］処理経費の説明があります。上のグラフの処理経費と下の青い棒グラフの値の違いは何によるものでしょうか。それぞれ一人あたり、1トンあたりで計算しています。データの中身が違うということでしょうか。

（担当課）

　資料の出典が異なっており、上のグラフは市独自で集計した結果です。下の方は国が行っている一般廃棄物の実態調査のグラフになります。集計の対象範囲が違うことが値の差として表れております。

（委　員）

　［資料1-2］年間排出量については、人口に比例して減っているということでしょうか。

（担当課）

　人口が減ればそれだけごみの総排出量は減っていくということではありますが、一人一日平均排出量につきましては、人口一人あたりについてのものでありますから、この減少傾向は、いろいろな啓発活動をする中で、生ごみの水切り等、住民の方々がごみの減量に取り組んでいただいた結果と考えています。

（委　員）

　岩国市はすごく取り組んでいるのですね。

（担当課）

　そうですね、住民の方がすごく取り組んでおられると理解しています。

（委　員）

　　［資料1-4］一般的に事業所から排出されるごみが80～90％と聞いています。基地のごみは今回除いたとのことです。グラフでは平成25年がピークになっていますが、これは企業活動が盛んであったからでしょうか。

（担当課）

　　事業者数を調べてみたところ平成21年度が7,024、平成24年は6,140、平成26年が6,556で、事業者数と同じような傾向で増減しているわけではないようです。事業者数がそのまま反映しているのではなく、事業の内容が効いてきているものかと考えているところです。

（委　員）

　平成25年は基地の中の工事が最盛期の頃で、おそらく基地内に毎日2,000人規模で入っていた年です。全国各地から岩国に来て工事して、市内に宿泊していたことが要因と思われます。

　　（会　長）

　［資料1-8］リサイクルごみのことなのですが、容器包装プラスチックについてだけが全国平均より高いです。焼却灰については先ほどの説明で理解でき、廃食用油についても推測が出来ますが、容器包装プラスチックはなぜでしょうか。

（担当課）

　岩国市は容器包装プラスチックを別で分けていただいくルールになっているため、その取組みが結果に出ているということだと思います。

～担当課から既定計画に示す施策の実施状況、ごみ組成調査について資料に沿って説明～

（会　長）

ご意見、ご質問ございますでしょうか。

（委　員）

　ごみの組成調査は何か施策に反映されるのですか。

（担当課）

ごみの分別が不十分であれば、より啓発をしていかなければならない、といったところになるかと思います。また、入っていてはいけないものが混入していること、例えば、最近、プラスチックごみの中に電池類が入っていることが原因で工場や収集車が火災を起こしている状況がございます。それを防ぐための啓発を行っているところですが、それがどれくらい実績として出てきているかというところも見えてくると思います。

（委　員）

　調査のやり方についてお聞きします。各検体、ごみ袋10袋とのことですが、検体の選び方は決まった方法があるのですか。

（担当課）

　　偏ったごみを選んでもいけないので、職員がその地域ごとに一般的であろうごみを対象に定点から持ち帰ります。これは業者さんに委託すると平常時のごみの質がわからないため、よくわかっている職員が判断して持ち帰っております。

（会　長）

　調査の目的ですが、啓発資料のデータとするとなっています。これだけを啓発資料のデータとされるということですか。私たちが施設を見学させていただいた際に、不適切ごみの内容を見ると、これは非常識だなというものがかなりありました。それをもっと反映させることのほうが重要なのではないかと思ったのですが。

（担当課）

　確かにおっしゃるとおり、この組成調査に基づいたものだけを啓発対象にするということではなく、先ほどご説明したバッテリーの件も実際に施設で火災が起きている実情を踏まえて啓発を行っているものでございます。ごみ調査に関わらず、ごみ問題としてあるものについては、チラシ等や、またチラシに限らず啓発していくことを考えております。

（会　長）

　　よろしくお願いします。

～担当課から平成30年度審議会での論点とスケジュールについて資料に沿って説明～

（会　長）

　　ご意見、ご質問ございますでしょうか。

（委　員）

　　論点１にある「中期目標値と乖離する傾向にあるのは、直接搬入ごみ（主に事業系ごみ）の将来排出量とリサイクル率です。」については、先ほどの資料1-4が根拠ということで、よくわかるのですが、基地ごみの排出量がどんどん乖離していくことは、この審議会の中では取り上げないのでしょうか。

（担当課）

　　この論点1の直接搬入ごみは、基地ごみを含んだものとして書いてありますので、今回の計画改定の中では基地ごみは別に分けて議論した方が良いのかなと考えています。先ほどの資料1-4,1-5が一緒になったごみの傾向に対する対策、具体的には基地ごみが効いているため基地ごみは別に取り扱って事業系ごみの傾向を把握していくよう整理していくのが良いかと考えているところです。

（委　員）

　　資料1-5の説明において、これ以上は市として受け入れないという基準を設けているとのことでした。それ以上受け入れなければそのとおりになると思いますが、これが緩くなると話が変わってきますね。

（担当課）

　　そうですね、変わってくる可能性はありますが、今のところ排出量が仮に2倍になってもまだ許可量の範囲内なので、現時点では上限を超えないと考えております。

（委　員）

　　来年の4月から、新しい焼却施設に変わるということで、先ほども容器包装プラスチックが全国と比べて高く、岩国市は非常にきめ細かい分別が今までなされているのですが、私は連合自治会に所属しておりますので、そちらの方からあまりにも分別方法が細かすぎて高齢化が進んでいく時に、新施設建設に際して、住民が分別しやすいような分別方法に改善ができないかという要望をしています。今年の審議会のスケジュールにはそういった内容はありませんが、既にこれまでで決定しているのでしょうか。

（担当課）

　　今回の改定の施策の中に汚れたプラスチックの取扱い、併せて在宅医療廃棄物の取扱いをテーマとして加えて、排出方法について変更が出来ないかを検討して取りまとめをしていこうと思います。具体的なものが今後、施策をお示しする中に上がってくると思いますので少しお待ちいただけたらと思います。

（委　員）

　　資料3とかぶるのですが、汚れたプラスチックごみの選別ですね。これにつきまして平成27年度でだいたい99ｔ～100t位の選別をされています。収集プラスチック全体の量としたらだいたい2,600くらい。他の業務にまして経費がかかるとともに人件費も高い、このあたりの人件費が相対経費の中でどのくらいかかっているのですか。汚れたプラスチック類は地球温暖化のほうから言うと、一番炭酸ガスを出すものです。これが99ｔあるので、行政は広報などでの啓発でいかに手作業を減らしていくか。この間行った下松や萩でも同じような状態ですね。水で洗って排出すれば海洋汚染になるなどいろいろ問題はあるでしょうが、炭酸ガスの減少にも非常になるので、もう少し真摯に取り組んでいただきたいなと考えております。

（担当課）

　　手選別に係る経費についてですが、手選別というのは汚れたプラスチックを取り除くだけの作業ではなく、他の要素もございます。入ってはいけないものを取り除くことも作業の中にございますので、汚れたプラスチックを取り除くための経費の算出はできません。出荷前に手選別で異物を取り除くことは必要な作業ですから、汚れたプラスチックを燃やせるごみで出せるようにすれば、その作業量は軽減されると考えているところでございます。

（委　員）

　　今回の見直しは平成31年からということで、新しい焼却炉が動いてからの話になります。分別の方法を見直すか見直さないかはこれからになると思います。現状どおりだとしても、例えばリサイクル率や処理費用など変わってくると思います。今のこの計画にはそのあたりは入っていないので、今回それを含んで考えなければいけないと思うのですが、そのあたりはいかがなのでしょうか。

（担当課）

　　今回の計画期間は、新しい焼却施設が稼働した後のものとなりますので、そのあたりは織り込んでいくことにしております。新焼却施設は発電施設も入ってまいりますので、発電がどれくらいリサイクルに貢献できるのかという点も先進他市の整理の方法を参考にしながら今から加えていく必要があると考えております。

（委　員）

　　イメージでは売電するメリットから処理費用は下がるような気がします。既存の施設は古く効率が悪いこともあり、下がるような気がしますが、リサイクル率はどうなのですか。

（担当課）

　発電量をどうリサイクル率に還元していくのかが課題でございます。例えば発電をすることによって、極端な例として、発電しているということはごみの全量をリサイクルしているという整理をしてしまうと、ごみは全て燃やしてしまえばリサイクル率が上がるではないかということになってしまい、そうすると今までの分別は一体何だったのかという話になりかねないため、慎重に整理をして方法を決めていきたいと考えています。

（委　員）

　　[資料4]論点として、既定計画との乖離や数値目標の見直しという表現がありますが、そもそも乖離が本当にあるのか、目標値の見直しが本当に必要なのかというところが理解できていない状態です。そのあたりの必要性そのものや、なぜ数値の開きがあってそれはどういうことによるものなのかというような議論をこの場で行い、必要であれば目標値の変更を考えていくという流れのほうがよいのではと思います。最初から見直し前提というよりも、具体的に本日示されたデータ以外にもいろいろ実態を表す資料があると思いますので、そういったものをお互いに見ながらなぜこういう変化をしているかという共通認識をして、必要であれば変えていきましょうという積み重ねが必要かと思いました。

（担当課）

　　おっしゃるとおりです。目標値の変更ありきで進めるということは考えていません。目標値の設定における根拠がどこにあるのか、実情がどうなのか、ということを整理しながら目標値の変更の必要があるかどうかについて検討していくべきですので、そういった議論ができるような場にしていきたいと思います。

～担当課からアンケート調査の実施について資料に沿って説明～

（委　員）

　　平成20年からアンケートを行われていますけれども、回収率と市民や事業所の意識向上が対応しているのではないかと思うのですが、上がってきているとかありますでしょうか。

（担当課）

　　平成25年の時の数字は資料18にありますが、前回市民アンケートは1,500人発送させていただき、回答数が806人で回収率が53.7％となっております。事業者アンケートは500事業所送らせていただきまして、回答数272事業所で回答率が54.4％となっております。残念ながら、平成20年度の時の回答数は確認できておりません。

（委　員）

　　大丈夫です。回答率が上がっていくといいかなと思います。

（担当課）

　　そうですね。50％超えていることからかなり皆さんにご協力いただいているとは思いますが、今回、さらに回収率が上がることを期待しています。

（委　員）

　　リサイクルステーションを業者が設置している問題について、私は自治会の関係で、ここにあるように資源回収をされたものが自治会に還元されて、それが自治会の活動費として利用されているという形の中で、非常に重要な資金源なんですね。このリサイクルステーションができるということについては、そういう意味では、非常に苦慮しているというか、心配しています。新聞は新聞販売店で決められた日に玄関口に置いておくとトイレットペーパーと引き換えということが非常に進んでいるので、アンケート問31のいつも利用しているという中で、利用しているのは何かという項目をひとつ入れて、皆さんがごみステーションに持っていく意識がどういう形であるのかというのも加えていただいて、できるだけ元々の行政がやっている、資源品をいわゆる住民の活動費にいくというのが減っている形で、非常に苦慮していますので、そのあたりの質問事項を考えていただいたらどうかなと思います。リサイクルステーションをなぜ利用しているのか、ポイントが付くとか業者さんによって違いますけれども、そういう理由を聞いてみていただけたらどうかなと思います。

（担当課）

　　問32に、「定期収集で自治会さんに還元するシステムを採用しており、その仕組みについて理解されていますか」という設問の下に、「利用されない理由は何ですか」という項目が設けてあるんですけれども。

（委　員）

　　それだけではわからないですよね。いつでも排出できないから、簡単だからリサイクルステーションに持っていくというただそれだけなのか。ステーションに持っていけば自分たちのお金に代わってくるわけですから、そういう意味のどちらが強いのかをついでなので聞いてみたらよいかと思うのですが。いかがですか。

（担当課）

　　問31の設問の場所も悪いのだろうと思うんですね。資源ごみの回収システムのところの設問に移動させたほうがよいのだろうと。移動したうえで、今おっしゃたような理由が上がるような設問にしていく、例えば問31の「いつも利用している」の後ろに理由が書ける箇所を設けてみるという工夫をしてみたいと思います。

（委　員）

　　できればよろしくお願いします。

（委　員）

　　前回は事業者の方の回収率が確か低かったかと。個人的には事業者こそ高いのかなという感じで思っていたので、事業者の反応が低いのは何故なのかなと思ったんですが。そもそもあまり廃棄物に対する問題意識が強くないのか。送付先の選び方に関係しているのか、そのあたりがどうかなと思います。

（担当課）

　　意識して協力いただいている事業者もたくさんあると思いますが、こちらも事業者向けの事業系ごみのパンフレット等を作成してお配りしたりもしていますが、なかなかそこまでの意識がない事業者もあるかもしれないですね。

（委　員）

　　特に今、災害を受けている地区に出されると、厳しいですよね。そちらの方が先だから。

（担当課）

　　発送のための名簿作成の際、被災されたと思われる地域は気づいた限りは取り除いて配慮はしたつもりです。100％ではないかもしれないですけれども、そういった配慮は一応させていただいております。

（会　長）

　　調査結果のフィードバックはどうされるのですか。

（担当課）

　　フィードバックはこういった計画の中でしかお示ししていないので、そのあたりが回収率が低い要因であるかもしれません。結果のお知らせについては、検討してみます。

（委　員）

集合住宅の問題なんですが、集合住宅で単身赴任者が増えたりして、集合住宅が結構建っています。ごみの分別があまりよくないとあちこちで聞いているのですが。管理会社も真面目にやっているのですが、なかなか収集業者さんにあたってみますと、かなり分別が出来ていない。行政サイドから管理会社の教育をされていると思いますが、難しいですね。

（担当課）

　　そうですね、集合住宅の場合、新たにごみステーションを設置されるケースがあると思います。その際にこちらから話しをさせていただく中で、分別の徹底をお願いしているところだと思うのですが、管理会社さんから住民の方へどの程度話が浸透しているかはこちらではわからないところですので、分別が悪いようであれば、説明資料や出前講座も行っていますので、ご依頼があれば出向いて説明をさせていただきますので、ご活用いただければと思います。

（会　長）

　　何かご意見ございますか。ないようでしたら、本日予定した審議を終了します。

（事務局）

　　本日は、委員の皆様には大変ご熱心にご審議いただきありがとうございました。

　　以上をもちまして、平成30年度第1回岩国市環境審議会を閉会いたします。